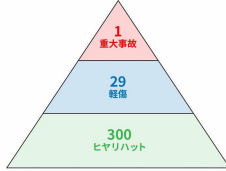


家庭内 ヒヤリハット

小さな子どもの行動って予測が出来なくて驚かされることよくありますよね。日常生活の中で思いがけない出来事に「ハッ」としたり、事故寸前の状況に「ヒヤリ」としたり。



ハインリッヒの法則では、1件の重大事故のうらに29件の軽傷事故と300件の無傷事故(ヒヤリハット)が隠れていると言われています。

小さな子どもに事故が起こりやすい主な要因が「**こどもの特徴**」と「**こどもの成長**」によるものです。

①こどもの特徴について

★大人と比べて身長や体表面積、臓器などすべてが小さい



- ・隙間に手や指をはさむ
- ・のどが細く誤飲による窒息を起こす
- ・視界が遮られ交通事故にあう

★身体のバランスが大人と異なる



- ・頭の比率が大きく重いため、バランスを失いやすく転倒しやすい
- ・柵があっても頭さえ通れば全身が通り落下事故が起きる

★身体能力、運動能力が未熟である



- ・飲み込む力が弱く誤飲による窒息を起こす
- ・体温調整力が未熟で熱中症になりやすい
- ・平衡感覚が未熟で危険を避けにくい

★理解が不十分で大人とは異なる動きをする



- ・先の予測がつかない
- ・危険という観念が分からず、目の前のものに手を出したり口に入れたりする

②こどもの成長について

本来こどもの成長は喜ばしいものですが、昨日までできなかったことが今日できるようになって事故は起きてしまいます。いつ頃どんな事故が起こりやすいのか知っておくことが、事故予防につながりますので、ご家庭でチェックをしてみてください。早めに環境を見直すことで、こどもの動きや遊びを制限することが減り、大人のストレスも減ります。

また、環境の見直しで一番大切なのは、こどもと同じ低い目線で危険を確認することです。こどもの視界の狭さ(左右90度上下70度の範囲)を体験できるチャイルドビジョン「幼児視界体験メガネ」を添付していますので1度試してみたいはいかがでしょうか。納得できることがあるかもしれません。

ねんねのころ

- ・ 枕や布団など柔らかいものによる窒息
- ・ 誤って上から熱い飲み物をこぼす
- ・ 車に乗っていて交通事故にあう



- 固めの布団に仰向けに寝かせる
- 赤ちゃんを抱いたまま熱いものを扱わない
- 必ずチャイルドシートを使う

ねがえりのころ

- ・ ベッドやソファからの転落
- ・ スタイやカーテンのひも等が首にからまる
- ・ ビニール袋やラップで窒息
- ・ 車内での熱中症



- ベビーベッドは常に柵をする
- 寝ているときはスタイを外す
- こどもの周囲はできるだけ片付ける
- こどもだけ残して車を離れない



ハイハイのころ



- ・ ストーブやアイロン、コンセントにさわる
- ・ たばこ・医薬品・洗剤・コインなどの誤飲
- ・ 階段やベビーカーからの落下



- 危険なものはサークルで囲う
- くちに入る大きさ(トイレトペーパーの芯)の物を床に放置しない
- 転落予防の柵やシートベルトをつける

つかまり立ち・伝い歩きのころ

- ・ 電気ケトルや炊飯器など蒸気でやけど
- ・ テーブルの上の熱い飲み物をひっくり返す
- ・ 浴室や洗濯機でおぼれる
- ・ 家具の角などに頭をぶつける



- 手の届かない場所に置く(コードにも注意)
- テーブルクロスは敷かない
- 残し湯をしない、チャイルドロックをかける
- 危険箇所にはコーナーガードをつける



ひとり歩きのころ

- ・ 道路に飛び出して事故に遭う
- ・ 歯ブラシやフォークなどの「のど突き」事故
- ・ 大人と自転車 2 人乗りによる事故
- ・ 家具によじ登り倒れて下敷きになる



- 外出の際は手をつないで歩く
- 咥えたまま立ったり歩いたりしない
- ヘルメットとシートベルトの着用
- 家具は固定し扉にストッパーをつける



2～3 歳のころ

- ・ バランダや窓からの転落
- ・ 遊具に服が引っかかり窒息
- ・ プール・川・海でおぼれる
- ・ エスカレーターに服や靴が巻き込まれる



- 踏み台になるようなものは置かない
- ひもやフードのついた服で遊ばない
- ライフジャケットを着用する
- こどもだけで近づかせない